

LATIN PATRIARCHATE OF JERUSALEM

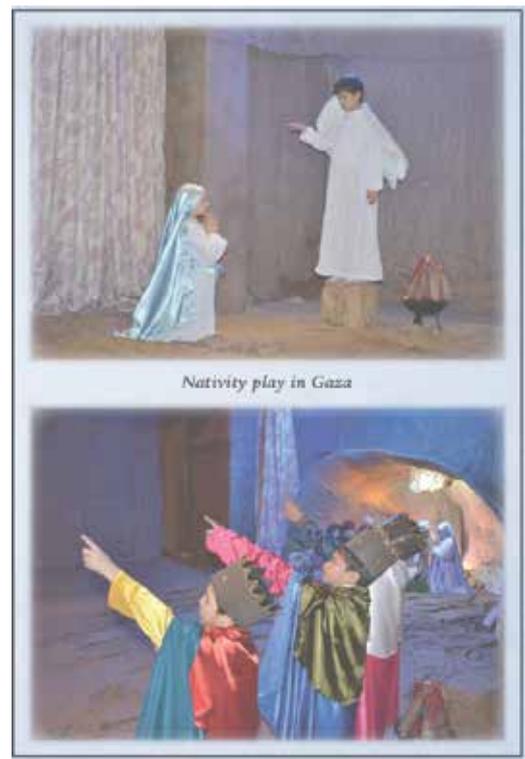
緊急人道援助報告書

2024年11月



目次

- ピッツァバッラ枢機卿からの手紙 P. 3
- 支援配布の概要 P. 4
- 最高経営責任者（CEO）からのメッセージ P. 5
- ガザへの支援 P. 6
- ピッツァバッラ枢機卿のガザ訪問 P. 9
- エルサレムおよび西岸への支援 P. 11
- 支援の状況と受益者の感想 P. 12
- 感謝 P. 19
- 将来の計画 P. 20
- 結論 P. 20
- 財務報告 P. 21
- 寄付者リスト P. 22



親愛なる兄弟姉妹の皆様

主が皆様に平和をもたらしますように！

まず初めに、ご支援に対し、皆様お一人おひとりに感謝を申し上げます。

一年前、エルサレムのラテン総大主教区は皆様にご支援をお願い申し上げました。戦争という暴力がする中、人々が他者に神の姿を見出すことが困難な危機の時でした。この「呼びかけ」に対し、皆様は心からの応答をしてくださり、私たちは慈善活動を通じて、見えない「神がすべての人間において見える存在になった」（創世記 1:27）という証を見ることができました。

皆様の支援が、西岸やガザをはじめとする様々な地域で何千人もの人々に届いていることをお知らせできることを嬉しく思います。多様なニーズに対応し、状況が変化する中で支援が提供されました。

慈善活動に特徴的な真実の精神のもと、これまで受け取った支援、費用および今後の予定についての詳細な報告書を公表する時が来ました。添付の報告書は、どの地域で支援が行われたか、また今後どのように資金が使われる予定かを示しています。

それは、どのような取り組みが始まり、どのような取り組みが計画されているかを明示しています。また、過去1年間に各地域に影響を与えた重要な変化について述べています。そして、神への信頼、他者への信頼、そして信頼されることを通じて希望を持続させるために行おうとしている将来の努力に向けた方向性を示しています。

教会として、この時期に、互いを信頼すると、建設的な方法で現実を見るために目が開かれることを経験しました。一方で、信頼がない場合、目は閉ざされ、視点を失います。信頼はまた、すべての人間の尊厳への敬意を生み出します。この信頼こそ、私たちが保護し、奨励し、再構築しようとしてきたものであり、特に悲劇が私たちに、「福音の小さき者たち」のようであるべきことを気づかせた場所においてです。

数は少なく、資源も限られている私たちですが、暗闇の時においてもキリストの言葉が私たちの指針であり続け、希望を抱いています。

「これらの小さき者たちを軽んじてはいけません。天において彼らの天使たちは絶えず、天におられる私の父の顔を見ているのです」（マタイ 18:10）。

親愛なる兄弟姉妹の皆様、心から感謝を申し上げます！

祝福された聖母マリアの母なる取りなしが、私たちが神の言葉を聞き続け、日々の生活の中で神と他者のための余地を作ることを支えてくださいますように。

キリストにおいて、

エルサレムのラテン総大主教

ピエルバッティスタ・ピッツァバッラ枢機卿

支 援 の 概 要

総支援額：US\$ 10,300,000(全世界から)

西岸地区およびエルサレムへの割り当て：US\$ 4,300,000

ガザへの割り当て：US\$ 6,000,000



援助物資の配給 (2024年9月)



子どもたちの教育も始まる

受 益 者

すべての地域の合計：140,000人

食料支援
現金援助
医療支援
教 育
雇用創出
住宅支援
移民支援
そ の 他



サミ・エル-ユセフ（最高管理責任者）のメッセージ

2023年10月7日に始まった戦争の初期段階で、この戦争が大規模な破壊と罪のない人々の命の喪失を伴う長期的なものになることが明らかになり、教会がこれまでの危機時と同様に即座に対応する必要があることが分かりました。ガザだけでなく西岸地域の膨大なニーズに応えるため、さまざまな寄付者を対象に資金調達の呼びかけが行われました。主にヨーロッパに拠点を置くカトリック慈善団体からの早期の応答があり、その後、エルサレム聖墳墓騎士団の各支部への呼びかけ、そして2023年11月に大主教によって行われた一般的な呼びかけが続きました。カトリック慈善団体から受け取った資金は特定用途に限定されていましたが、各支部および一般的な呼びかけからの資金は汎用性があり、最も必要とされる場所で使用する柔軟性がありました。現在までに、1,030万ドルが調達され、そのうち約720万ドルが世界中のカトリック教区や宗教団体を含む国際的な組織から、約240万ドルが騎士団の多くの支部から、残りが国際および地元の個別の寄付者からいただきました。寄付者のリストは800人以上に及び、非常に多く、その寛大なご寄付に対する感謝の意をこの報告書の後半で述べさせていただきます。

ガザでは、ホーリー・ファミリースクール、トマス・アクィナスセンター、慈善団体の子どもたちのホームなどを含む建物に前例のない破壊が及び、その被害額は数百万ドルに上ると見積もられています。さらに、多くのキリスト教徒の家族が完全に家を失い、戻る場所がない状況です。しかし、物理的な損傷を修復する費用が非常に高額になるにもかかわらず、これまでに集められたすべての資金は、戦争開始以来ホーリー・ファミリー教会の敷地に避難した約700人のキリスト教徒の日々の生活を維持するために使用されてきました。この支援には、食料、水、医薬品、個人用品が含まれています。

さらに、私たちは正教会に避難した約250人のキリスト教徒、さらに何千ものイスラム教徒の家族に、私たちがガザで持っているものを共有しました。続く戦争、物資不足、そして非常に高騰した物価にもかかわらず、奇跡的にガザで苦しむ兄弟姉妹を支える活動を続けることができました。

西岸地区では、2023年11月と12月に受け取った資金が、食料クーポン、現金支援、医療支援、学費補助、社会支援（家賃や光熱費の支払い補助など）を含む純粋な人道支援に充てられました。2024年1月からは人道支援を継続しつつ、インターンシップ、労働集約型プロジェクトの実施、小規模事業の開発などを含む雇用創出に焦点を移しました。この支援により、数千人が尊厳を持って生計を立てることが可能となりました。

この支援はガザや西岸地区だけにとどまらず、戦争の影響を直接受けたイスラエルの移民コミュニティや、戦争による経済的低迷の影響を受けたヨルダンの家族への学費補助の一部にも拡大しました。

私たちは、140,000人以上の受益者に支援を届けることができたことを誇りに思います。その中には、ガザのキリスト教徒コミュニティ全体（100%）、および西岸地区のキリスト教徒コミュニティの30%以上が含まれています。また、甚大な苦しみを目撃した

広範なコミュニティの何万人もの人々も支援を受けました。この戦争の影響が今後数年間続くことを考えると、戦争が終わった際には、持続可能性を確保するための施設再建だけでなく、必要な場所でのサービスを拡充することで、地におけるキリスト教徒の存在を維持するための合理的な計画を策定する必要があります。

皆様のご寄付に心から感謝いたします！

ガザへの支援



ガザでのフルーツと野菜の配給（2024年11月）

ガザ市での大規模な強制移動



ガザ市の住民は120万人から40万人に減少しました。

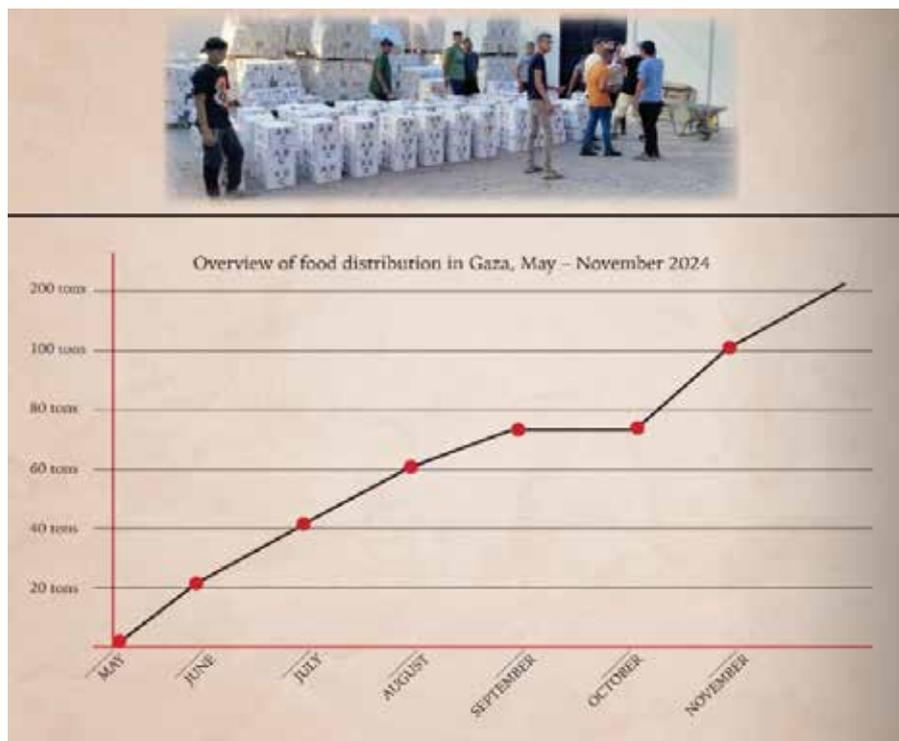
ガザ市の聖家族小教区

キリスト教徒の住民は 1,017 人から 700 人に減少しました。



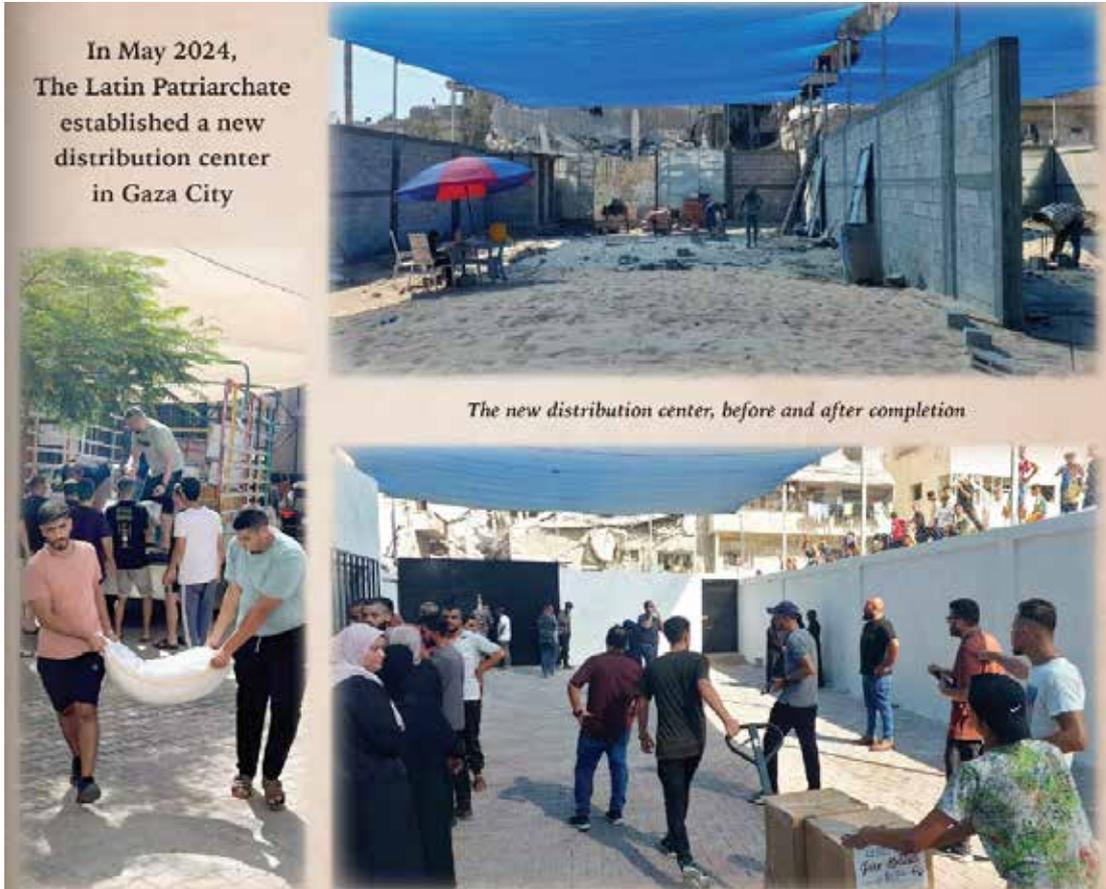
ガザにおける全体の食料配給の推移

(2024年5月ー11月)



配給センターの設置

2024年の5月総大主教区は新しい配給センターをガザシティに設置しました。



新しい配給センターの完成前と完成後



ガブリエル・ロマネッリ教区司祭、配給センターで、教会の信者とともに。

ピッツァバッラ枢機卿のガザ（聖家族教会）訪問

2024年5月16日～20日

2024年5月、エルサレム大主教ピッツァバッラ枢機卿はガザを訪れ、聖家族教会敷地内で地域社会の人々と共に5日間を過ごしました。

この地元教会の責任者として、大主教は愛する人々や家、財産を失った多くの家族に寄り添う姿勢を示しました。この訪問を通じた同情と連帯の姿勢は、地域社会の精神を励まし、普遍教会の愛と配慮を表現しました。「羊飼い」がその群れと共にいる姿は、ガザの地域社会だけでなく、善意あるすべての人々にとって今日でも忘れられない記憶であり、希望の象徴となっています。

枢機卿の訪問を歓迎する信徒たち



枢機卿、ベーカリー訪問、2024年夏

枢機卿を歓迎する子どもたちと主任司祭



マザー・テレサの修道女たちのホームを訪問
 修道女たちは40年以上も病人の世話をしている。

「天の御国はこのような者たちのものである」 (マタイ 19:14)
 「私は病気だったとき、あなたは世話をしてくれた」 (マタイ 25:36)



カルロス・フェレロ神父
 病人にご聖体を授けています。



枢機卿、病気の子どもを見舞う。



子どもたちは、遊びに、勉強に元気いっぱい！

エルサレムと西岸地区への支援

支援物資の配給



冬の寒さに備えて



医療支援

目のケア支援と薬の配給



子どもへのおもちゃの配布

「子どもたちを私のところに來させなさい」 (マタイ 19:14)



支援の状況と受益者の感想

食料と基本的なニーズ

フード(食料)クーポン

エルサレムと西岸地区では、フードクーポンの提供が多くの家族にとって命綱となっています。これらのクーポンは、家族が必要な食料品や家庭用品を購入できるようにし、困難な時期でもバランスの取れた食事を維持できるよう支援しています。地元の食料品店と提携することで、私たちは家族を支援するだけでなく、不況の影響を受けた地元ビジネスの維持にも貢献しています。過去1年間で、私たちはエルサレム東部と西岸地区のキリスト教徒の家族に7,000枚以上のフードクーポンを配布することができました。

受益者の声

「夫が失業し、貯蓄が減少する中で、どのようにして食卓に食事を並べるのか全くわかりませんでした。このクーポンのおかげで、子どもたちが空腹で眠ることがなくなりました。支援に非常に感謝しています。」 マリア・H-エルサレム

調理済み食品 (ready meals)

過去1年間、LPJ (ラテン「カトリック」総大主教区) は、ガザにおいて包括的な緊急食料支援プログラムを実施し、危機下での避難民を支援するための並外れた取り組みを示しました。この重要な取り組みでは、避難を余儀なくされた4万人以上の人々に栄養価の高い食事を提供することに成功しました。この活動の規模は特に注目に値します。聖家族教会の敷地内に避難している教区とイスラム教徒の隣人の間では、LPJは84万食(1日3回の食事を400日間、700人分)を提供し、さらに200トン以上の食料支援を分配しました。これらは1食あたり500グラムで計算すると40万食に相当します。

全体として、この人道的支援は120万食以上を提供し、絶望的な状況にある人々が定期的で栄養豊富な食糧を確保し、厳しい状況の中でも安定を維持するのに貢献しました。このプログラムは栄養失調を防ぎ、住む場所を失った人々に安定感を与える上で重要な役割を果たしました。1日3回の安定した食事の提供により、緊急の飢餓ニーズに対応し、地域社会の結束を維持し、極めて厳しい状況下で生き抜くための重要な生命線となりました。



医療支援

LPJの医療支援プログラムは、現在進行中の危機により影響を受けた2万人以上の人々に到達し、重要な役割を果たしてきました。西岸地区では、多くの家庭が健康保険を持たず、基本的な医療処置や治療へのアクセスが極めて困難です。この包括的な医療支援プログラムにより、それ以外では不可能であった医療サービスを提供しています。

このプログラムは特に慢性疾患を抱える患者にとって重要であり、深刻な財政的困難に直面している家庭にもかかわらず、必要な薬品への安定的なアクセスを提供しています。ガザでは、医療品と薬剤供給の不足により、医療危機が特に深刻です。教会施設内の配給センターを仮設診療所に転換するなどの革新的なソリューションが導入され、近隣地域に避難しているすべての人々、特にイスラム教徒の隣人にも対応しました。

このプログラムはまた、宗教の違いに関係なく人道的支援を提供するという私たちのコミットメントを体現しています。さらに、深刻な疾患を抱える人々に必要な専門的な医療機器を提供するための複雑な物流課題も克服しました。こうした取り組みにより、必須の薬品と医療支援を一貫して提供し、慢性疾患の治療を支え、緊急の医療ニーズに応え続けています。

「私は慢性疾患を抱える子どもを持つシングルマザーであり、薬の費用は圧倒的でした。受け取った医療支援と薬は本当に恵みでした。今では、金銭的な負担を心配することなく、子どもが必要とする治療を受けさせることができます。寛大な支援に感謝します。」

リナ A. – ベツレヘム

「私の名前はマリヤムで、私は高齢の両親と共にラマツラに住んでいます。父が紛争の影響で仕事を失ったとき、私たちは食料や彼の糖尿病の薬を手に入れるのに苦労しました。受け取ったフードクーポンと医療支援は、本当に祝福でした。今では食卓に食事を並べることができ、父の健康も安定しました。この支援は、この困難な時期に希望を与えてくれました。」

マリヤム N. – ラマツラ

「慢性疾患を抱えること自体が十分に大変ですが、紛争が夫の収入に影響を与えたとき、私は治療を中断しなければならないのではと恐れていました。この医療支援プログラムのおかげで、必要な薬を受け取れることが保証されました。それは私の健康を守るだけでなく、命を救っています。」

アミラ D. – バイトジャラ



2万人以上の受益者が、私たちの医療支援プログラムにより支えられています。

教育支援

現在進行中の危機の中で、教育支援は希望と安定の重要な柱として浮上し、エルサレム、西岸地区、ガザ、ヨルダンを含む全地域で 8,000 人の学生に直接恩恵を与えています。この包括的な教育支援プログラムは、教育の継続性と学業の発展を確保するために、以下の 3 つの重要な取り組みを中心に展開されています。

1. 戦略的奨学金プログラムを通じて、若い女性と男性が、通常では手の届かない高等教育の機会を追求できるようにしています。この高等教育への投資は、個人の人生を変革し、地域社会の復興と開発努力に貢献できる熟練した専門家を育成することで、地域の回復力を強化しています。
2. 学費支援プログラムは特に大きな影響を与えています。このプログラムにより、多くの家庭が子どもを学校から退学させざるを得なかった経済的障壁を取り除きました。この基本的な費用をカバーすることで、数千人の学生が中断することなく学業を継続でき、困難な時期にも生活の中で一定の安定感を得られるようにしています。この教育の一貫性は、子どもたちの心理的な幸福にとって貴重であり、構造的な日課を提供し、社会的つながりを維持することが、彼らの発展にとって重要であることを示しています。
3. さらに、学校用品配布イニシアチブは、教科書から基本的な文房具までの必須の学習教材を学生に提供することで、重要なニーズに応えました。この包括的な支援は、経済的困難に直面している家庭にかかる重大な財政的負担を軽減し、教育に必要な基本的な資源が不足しているために、いかなる子どもの教育も妨げられることがないようにしています。このプログラムの包括的なアプローチは、教育の成功が学校へのアクセスと適切な学習ツールの両方を必要とすることを認識しています。



これら 3 つの教育支援プログラムの要素により、5,000 人の学生にとって強固なセーフティネットが築かれ、困難な状況の中でも教育の勢いを維持し、将来の可能性を守ることができました。この取り組みは、教育機会を基本的人権とし、地域の将来的な復興と発展への重要な投資として私たちのコミットメントを示しています。

「新学期が近づく中で、必要な学用品をどうやって子どもたちのために手に入れるか心配していました。皆さまのご寄付を通じて提供された学用品は、子どもたちが学業で成功するために必要なすべてを揃えてくれました。教育を支援してくださり、ありがとうございます。」

ハンナ・J. - エルサレム

「ベツレヘムで3人の子どもを持つシングルマザーとして、今年は子どもたちの学費を払えないことに打ちひしがれていました。この取り組みを通じての学費援助と学用品のおかげで、子どもたちはまだ学校に通っています。困難にもかかわらず子どもたちが教育を続けている姿を見ると感謝の念に満ち、彼らの未来への希望が湧きます。」

ダイアナ・G. - ベツレヘム

「医学を学ぶことを夢見ていましたが、経済的な状況では不可能だと思っていました。私が受け取った奨学金は、教育を続けるだけでなく、いつか地域社会の再建に貢献できる希望も与えてくれます。」

マリアンヌ・S. - ザバベデ

心のケアのための補習教育

*LPJは「ラテン(カトリック)総大主教区の略

物理的な破壊以上に、子どもたちへの心理的な負担は重大です。彼らは教育を奪われ、安全感も失っています。多くの子どもたちは今、生きるための毎日の闘いに直面しており、食料、安全な水、衛生設備といった基本的な生活必需品さえ欠いています。かつて知っていた子ども時代は、恐怖と不確実性に取って代わられました。

このような困難な状況にもかかわらず、LPJと聖家族学校の運営者たちは、避難している子どもたちの教育を続けるために積極的な措置を講じました。2024年6月初めから8月末まで、幼稚園から小学6年生までの180人の避難した生徒たちを対象に補習授業を組織しました。これらの補習授業は、家族が避難していた教会敷地内にあるLPJ学校の建物で行われました。この授業の教師たちは、自身も避難し教会敷地内に避難しているボランティアでした。学校の運営者たちは、これらの困難な状況下でも学習の継続を確保するために建物内に適切な学習スペースを確保し、椅子、ボード、学習教材などの必要な教育用品を提供しました。



この期間、安全は最優先事項でした。治安状況が特に危険な場合には授業を柔軟に調整し、学生や教師の安全を確保しながら、教育の継続性を保つよう努めました。

この期間、安全は最優先事項でした。治安状況が特に危険な場合には授業を柔軟に調整し、学生や教師の安全を確保しながら、教育の継続性を保つよう努めました。

困難な状況にもかかわらず、生徒の出席率は非常に高く、この取り組みが子どもたちやその家族に受け入れられ、感謝されていることを示しています。このプログラム

は、紛争や避難を乗り越えて教育への真摯なコミットメントを示し、学習を続ける重要な生命線となり、危機の中で日常生活へのつながりを維持する手助けとなりました。

今後数か月で、地域社会にサービスを提供するためにガザで2つの学校を再開することを目指しています。現在クリスチャンコミュニティの避難所として使用されているLPJ学

校がすぐに解放される見込みはなく、大半の家族が家を失い戻る場所がないためです。また、聖家族学校は大きな損害を受け、修復には時間がかかります。そのため教区敷地に近い土地を借りる（または可能であれば購入する）計画を立て、近い将来にそこに学校を設立する予定です。

さらに、他のキリスト教学校とのパートナーシップを検討し、共同の取り組みを開始し、キリスト教学校の1つを再建することを目指しています。1年以上も教育を受けられなかったガザの子どもたちが、再び学習のプロセスに戻ることを約束しています。

雇用創出

持続可能な収入が長期的な安定に不可欠であることを認識し、雇用創出の取り組みは過去9か月間、地域社会内で意義のある雇用機会を特定し、創出することに重点を置いています。これらの取り組みは、地域社会への影響を最大化し、必要な人々に収入を提供するためのさまざまな形を取っています。

主要なアプローチの1つとして、LPJの建設および改修プロジェクトに労働者を直接関与させています。「現金による仕事」プログラムを通じて、地域の労働者を建設や修復作業に巻き込み、地域社会に直接利益をもたらすプロジェクトに貢献する機会を提供しています。このアプローチは、1つの請負業者を雇う従来のモデルから離れ、地域社会のメンバー間で仕事を分配することで、多くの家族がこれらのプロジェクトから経済的な利益を享受できるようにしています。

雇用機会をさらに広げるために、地元の企業や機関とパートナーシップを確立しました。これらの協力関係は、失業者を支援するための新しい職種やインターンシップの機会の創出に焦点を当てており、特に専門スキルや訓練を受けた個人を対象としています。これは、追加のスタッフを雇うための財政資源が不足している機関に特に大きな影響を与えています。給与を補助したり、有給インターンシップを提供したりすることで、地域の機関の経済的な回復力を支援すると同時に、実践的な職務経験を得る個人を支援しています。

私たちの雇用創出への取り組みは、ガザの聖家族教会敷地内でも拡大しており、地域社会のニーズに応える役割を果たしながら、労働者に安定した収入を提供しています。これらの職種には、保守管理、育児、教育、地域社会支援といった基本的なサービスが含まれます。これらは特に、避難や経済的不安定の時代において価値が高いものです。避難者にとって、これらの仕事は財政的な救済を提供し、地域社会における目的意識と帰属意識を新たに与える機会を与えています。



これらの取り組みのすべては、地域社会主導の持続可能な雇用が、長期的な繁栄と尊厳への道であるという信念に基づいています。過去 9 か月間で、4,000 以上の雇用機会を提供することで、地域社会に強固な経済基盤を築き、即時のニーズに対応しつつ、持続的な安定と成長に貢献しています。

「仕事を失ったことは大きな打撃で、新しい雇用を見つけるのはこの時代には不可能に思えました。寄付による雇用創出の取り組みのおかげで、再び働く機会を得て家族を支えることができます。これはただの仕事ではなく、私たちの生活を再建するチャンスです。」

ナビル・K. - タイベ

住宅支援

直接的な家賃支援と光熱費支援を組み合わせた包括的な住宅安定化イニシアチブです。この二重のアプローチにより、家族が自宅に留まり、必要なサービスを維持することが可能になります。このプログラムは、危機的状況下でホームレスを防ぎ、尊厳を維持する重要な安全網として機能します。住宅と光熱費の両方をカバーすることで、家族は教育や医療などの他の重要なニーズに集中することができます。この取り組みは、5,000 以上の家族（20,000 人以上）に恩恵を与えました。

「私たちの財政状況は非常に深刻で、公共料金の支払いが追いつきませんでした。受け取った金銭的支援は、これらの基本的な費用を賄うのに役立ち、この困難な時期にも電気と水を確保することができました。皆様の支援は本当にかげがえのないものです。」

— マナル・B (ラマッラー)

「観光業での仕事を失い、無力感に陥り、家を失うことを恐れていました。雇用創出プログラムは、私が新しい仕事を見つけるのを助け、家賃支援は私たちの屋根を守りました。この支援は、単に経済的な助けだけでなく、私の尊厳を回復し、再び生きる目的を与えてくれました。」

— エリアス・T (ベイト・サフル)

「仕事を失うことは、食べ物と電気のどちらを優先するかという選択を意味しました。公共料金支援プログラムは、電気と水道が維持されることを確実にしてくれました。それは小さなことかもしれませんが、子どもたちにとって日常生活の正常さを維持するために欠かせないものでした。」

— サミ・A (ザバダ)

育児用品

この特化された支援は、乳幼児の独自のニーズに焦点を当て、危機的状況で入手が難しく高価なケア用品を提供します。このプログラムは、オムツ、粉ミルク、年齢に適した衣類、毛布などの一貫した提供を保証し、初期の重要な成長期間中の健康的な発育をサポートします。この対象支援は、適切な乳児ケアを確保しながら、家族の財政的なストレスを軽減します。過去 12 ヶ月間で、5,000 人以上の乳幼児がこの支援を受けました。

「私たちは新米の親として、赤ちゃんのための基本的な用品を購入するのに苦労してい

ました。受け取った乳幼児用品（オムツや粉ミルク）は大変な助けとなりました。私たちの肩の荷を大きく下ろしてくれたおかげで、子どもの世話に集中することができました。」
— ラニアとファディ・T（ベイト・サフル）

「子どもが生まれたばかりの親として、経済危機は私たちを強く打撃しました。乳幼児用品プログラムは、新生児のためにオムツから粉ミルクに至るまでの必需品を提供してくれました。冬が来たとき、冬支度支援が赤ちゃんを暖かく健康に保ってくれました。この包括的なケアに深く感謝しています。」
— サラとカダー・S（アブード）

冬季支援 (Winterization)

季節限定の支援プログラムで、厳しい冬の気候から弱者を守ることを目的としています。暖かい衣類、毛布、暖房器具の配布を通じて、このプログラムは特に紛争の影響を受けた人々にとって深刻なリスクとなる寒波に対応します。この包括的な冬季準備アプローチにより、寒さによる病気を防ぎ、厳しい冬の間でも快適さを確保します。過去 12 か月間で、影響を受けたすべての地域において 10,000 人以上にヒーター、冬用衣類、ブーツ、毛布が提供されました。

「私たちの家は寒さに備えていませんでした。冬季支援は、毛布や暖かい衣類、暖房器具を提供してくれ、寒い月の間でも快適で安全に過ごせるようにしてくれました。この重要な支援に感謝してもしきれません。」
— ヨセフ・E（エルサレム）

燃料と現金支援 (ガザ) (Fuel and Cash Assistance - Gaza)

聖家族教会敷地内で避難している家族のためのターゲット型支援システムで、柔軟な現金支援と重要な燃料供給を組み合わせたものです。現金の部分は、家族が変化する即時のニーズに対応できるようにする一方、燃料支援は医療機器や通信システムなどの基本的なサービスを維持します。この統合的なアプローチにより、即時の生存ニーズと長期的な施設の機能性の両方を確保します。

「燃料へのアクセスは、特に停電が頻繁に起こる私たちの日常生活にとって重要です。支援によって提供された燃料は、私たちが発電機を動かし、光や暖房、調理を確保できるようにしてくれました。本当に感謝しています。」
— アブーナ・ヨセフ（ガザ）

「紛争が激化した際、私たちはホーリーファミリー教会敷地内に避難しました。現金配布は私たち家族のニーズにとって非常に重要であり、雇用創出プログラムを通じて食糧配布を手伝う機会も得ました。この暗い時期、支援が私たちが忘れられていないことを思い出させてくれます。」
— マルワン・S（ガザ）

「教会敷地内では毎日が苦しい生活です。しかし、定期的な食糧配布と発電機用燃料のおかげで生活が少し楽になりました。食事を作ることができ、電気も少し使えるようになりました。人々が私たちの困難に気を配ってくれていることを実感させてくれます。」
— ナディア・M（ガザ）

移民および避難民の支援

LPJ（ラテン総大司教区）は、北部および南部イスラエルでの継続する紛争により避難を余儀なくされたキリスト教移民家族を支援する上で重要な役割を果たしてきました。これらの脆弱な人々が直面する巨大な課題を認識し、LPJは基本的人権である住居と食料に対処するための堅実な支援戦略を実施しました。

具体的には、家賃支援を提供することで、危険な紛争地域から安全な住居を確保し、不安定な時期に必要な安定感と保護を提供しました。この住宅支援を補完する形で、LPJは食料供給プログラムも確立し、これらの避難家族が定期的で栄養のある食事を受け取れるようにしました。この包括的なアプローチは、極度の不安と感情的ストレスの時期において思いやりのある生命線を提供し、紛争の中でも人間の尊厳を守るコミットメントを示しています。



感謝

今日、皆さまのご支援と寛大な寄付のおかげで、LPJ（ラテン「カトリック」総大主区）はガザ北部の人口の約10%に対して基本的な生活必需品を提供しています。

「もし一つの部分が苦しむなら、すべての部分が共に苦しむ…」

（1コリントの信徒への手紙ー12章26節）

という聖パウロの勧告に従い、私たちは共に協力して効果を生み出し、苦しむ兄弟姉妹の中におられる主イエス・キリストに仕えることができます。

この活動は皆さまなしでは成り立ちません。皆さまの継続的なご支援は非常に必要であり、心から感謝しております。

2024年9月28日に行われた第110回移民と難民のための世界デーの祝賀。



将来への計画

私たちは、包括的なニーズ評価を実施し、支援対象となる人口を拡大し、既存のプログラムの規模と範囲を拡大するための追加資金源を確保することを計画しています。また、家族のためにメンタルヘルスおよび心理社会的支援サービスを統合し、サービス提供を継続的に改善するための受益者フィードバックループを実施することも計画しています。

皆様の寛大なご支援により、LPJは引き続きガザで避難民への援助を提供し、すべての地域で紛争の影響を大きく受けた人々を支援してまいります。ガザで活動を行っている数少ない組織の一つとして、既存のパートナーシップを活用し、運営を持続させ、地域内でより多くの受益者に手を差し伸べるために、できる限りの努力を行います。

結 論

寛大な寄付は、聖地全体のキリスト教徒および非キリスト教徒の家族に対して深遠で広範囲にわたる影響を与えました。私たちの多面的な支援イニシアチブを通じて、差し迫ったニーズに対応だけでなく、この霊的かつ歴史的に重要な地域におけるキリスト教の存在を守る上でも重要な役割を果たしました。

提供された財政的な救済は、数多くの家族が直面している深刻な経済的負担を軽減し、彼らが自宅を維持し、子どもたちの教育を続け、必要な医療サービスにアクセスすることを可能にしました。この支援は生命線となり、経済的困難のために祖先の地を離れざるを得なかったかもしれない多くの人々の移動を防ぎました。

さらに、これらの寄付の影響は単なる財政的支援を超えています。食料安全保障から教育、医療、雇用機会に至るまでのさまざまな分野で包括的な支援を提供することにより、エルサレム、西岸地区、ガザにおけるキリスト教コミュニティの維持に貢献しました。この包括的なアプローチは、前例のない課題に直面する家族の希望と尊厳を守る上で重要でした。特に雇用創出イニシアチブや教育支援は、より安定した未来の基盤を築く上で重要であり、個人が地域社会に貢献し、聖地での存在を維持する力を与えました。

私たちが受け取った証言は、この支援がいかに深く生活に影響を与えたかを示しています。家族が自宅で一緒に暮らし続けることから、子どもたちが教育を受け続けることを可能にし、命を救う医療を提供することまで、また奨学金を通じて若者に希望を与えることまで、その波及効果は計り知れません。これらの寄付は、キリスト教コミュニティの回復力を強化し、この危機に耐え、キリスト教発祥の地での重要な存在を維持する能力を強化しました。

未来を見据える中で、聖地における支援の継続は依然として重要です。キリスト教コミュニティが直面する課題は続いていますが、私たちのコミュニティを支援し続けることへの私たちのコミットメントも同様です。すべての寄付は、その規模にかかわらず、この重要な使命の一部を担っています。これらのコミュニティと連帯することで、私たちの寄付者は単に即時の救済を提供しているだけでなく、何千年も続く豊かな精神的および文化的遺産の継続性を確保するために貢献しています。

この困難な時期において、寄付者の寛大さは、必要な人々を支援するための思いやりと連帯の永続的な精神の証となっています。

財 務 概 要

2023年11月～2024年11月

寄付金合計額: \$ 10,266,431

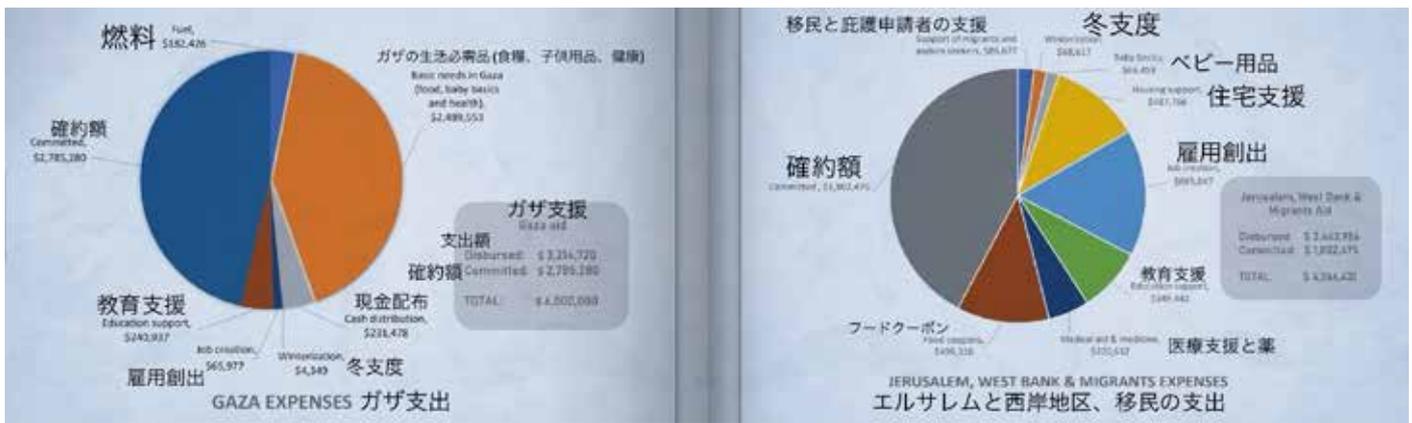
- 聖墳墓騎士団: \$ 2,416,948
- 地域団体: \$ 348,166
- 国際団体: \$ 7,199,088
- 地域個人: \$ 44,645
- 国際個人: \$ 257,585

ガザ支出

ガザのための支出	現在までの支出額	予定支出額	合計
燃料	\$ 182,426	\$ 145,000	\$ 327,426
基本的ニーズ (食料、乳幼児用品、医療ケア)	\$ 2,489,553	\$ 1,460,755	\$ 3,950,308
現金配布	\$ 231,478	\$ 250,000	\$ 481,478
教育支援	\$ 240,937	\$ 867,525	\$ 1,108,462
雇用創出	\$ 65,977	\$ 57,000	\$ 122,977
寒さ対策	\$ 5,000	\$ 5,000	\$ 9,349
ガザ小計	\$ 3,214,720	\$ 2,785,280	\$ 6,000,000

エルサレム、西岸地区、移民のための支出

エルサレム、西岸地区、移民のための支出	現在までの支出額	予定支出額	合計
フードクーポン(食料配給券)	\$ 499,316	\$ 350,000	\$ 849,316
住宅支援	\$ 487,766	\$ 350,000	\$ 837,766
教育支援	\$ 349,442	\$ 132,475	\$ 481,917
雇用創出	\$ 685,047	\$ 500,000	\$ 1,185,047
乳幼児用品	\$ 66,459	\$ 30,000	\$ 96,459
医療支援および薬品	\$ 220,632	\$ 280,000	\$ 500,632
寒さ対策	\$ 68,617	\$ 80,000	\$ 148,617
移民および庇護申請者の支援	\$ 86,677	\$ 80,000	\$ 166,677
エルサレム、西岸地区の小計	\$ 2,463,956	\$ 1,802,475	\$ 4,266,431
支出合計額	\$ 5,678,676	\$ 4,587,755	\$ 10,266,431
残 額			\$ 0



寄付者一覧

国際および国内からの寄付 (50,000 米ドル以上)

フライブルク大司教区、ケルン大司教区、ベツレヘム聖書大学、カトリック救援サービス (CRS)、チェコ司教会議 (ČBK)、聖母マリアのシオン修道会、フランス領事館 (エルサレム)、聖父慈善団体、アルゲーロ=ボサ司教区、ベルガモ司教区、ウェストミンスター司教区、OFM (兄弟会フランシスコ会)、オンラス財団、アッシジのフランチェスコ兄弟会、解放と交わりの兄弟会、ドイツ聖地協会 (DVHL)、ハンガリー支援機関、キンダーミッションワーク「星の歌い手」、ドイツ救急支援協会、Manos Unidas、Missio、**認定 NPO 法人「聖地のこどもを支える会」(日本)**、ウンブリアの聖フランチェスコ修道会、Select to Give Inc、キリストイエス奉仕者会、聖座(バチカン) その他匿名

国際および国内からの寄付 (10,000 米ドル以上 50,000 米ドル以下)

Aid to the Church in Need – アイルランド、Hope Christian Trust 支援、Ramallah Palestine 連盟 (AFRP)、モデナ・ノナントラ大司教区、サウスワーク大司教区、スプリト=マカルスカ大司教区、トロント大司教区、Habibi 協会、Santa Lucia Padua 協会、オーストリアホスピス、AMU ETS、サドベリーのカトリック教区、ベツレヘムの子ども救援、ガザへのキリスト教宣教団体、Most Holy Trinity (SST) 神父会、アランデルおよびブライトン教区、ドーバー教区、ランカスター教区など、その他匿名、

エルサレム聖墳墓騎士団分遣隊からの寄付

オーストラリア西部、オーストリア、ベルギー、カナダ (モントリオール)、中部アペニン (イタリア)、クロアチア、チェコ、東スペイン、イングランドおよびウェールズ、フィンランド、フランス、ドイツ、ジブラルタル、ハンガリー、アイルランド、中央アペニン (イタリア)、北アドリア海 (イタリア)、南アドリア海 (イタリア)、ルクセンブルク、オランダ、ニュージーランド、ポーランド、ポルトガル、スコットランド、スウェーデン=デンマーク、スイスおよびリヒテンシュタイン、アメリカ北中部、アメリカ北東部、アメリカ北部、アメリカ西部、スペイン西部。

私たちは、世界中からの 670 名以上の個人、機関、カトリック教区、カトリック修道会、そして教区の寛大な貢献に特に感謝いたします。

また、マルタ騎士団とマルタ国際支援団体が、ガザにおける LPJ の救援活動に貢献していることにも感謝します。この活動は本レポートの範囲外です。



ありがとうございました。
これからもよろしく願いいたします。